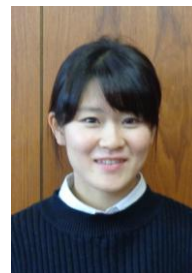


## 国立病院機構 和歌山病院の実習を終えて



石亀 真子

今回、呼吸器内科の実習の一環で和歌山病院に1泊2日で実習させていただきました。和歌山病院では、和歌山の結核拠点病院としての設備が整っており4月から新築された結核病棟に実習生として初めて入らせていただきました。新しい病棟では、結核疑いの患者さんが来られたときにそのまま病棟まで上げるシステムや陰圧室、二重ドアなど様々な工夫がされていてすべてが目新しいものばかりでした。またN95マスクを初めて体験させていただいたり、酸素マスクを実際につけてみて患者さんの気持ちを実感することができました。また、胸部レントゲンの読み方やポイントをただ教えていただくだけでなく、自分たちで頭を使って読み解いていくことを教えていただきました。今までは複雑でよくわからないと思っていたレントゲン画像に対して興味を持つことができ、実際病気を診断したいという気持ちが高まりました。2日目には、気管支体操を教えていただき今まで単なる記憶に頼っていたことが体を使うことでより明確なものになりました。

この2日間を通して、大学病院での実習では体験できない充実した時間を和歌山病院で過ごさせていただきました。南方病院長から教えていただいた「頭を使って物事を考えていく」ことはレントゲン画像を読み取るだけでなく、これから大学で実習するとき、医師になってからも忘れてはいけない考え方だと思います。今回和歌山病院で学んだことをこれからの実習に活かしていきたいと思いました。

最後に、南方病院長、駿田副院長をはじめ和歌山病院の職員のみなさん本当に2日間ありがとうございました。